

自己点検・評価結果について

令和4年度に受審した認証評価で指摘された項目について、令和6年度計画に反映させ、改善策を実施した。また、令和7年度も引続き改善の取組を行う。

改善を要する点	令和6年度実績	令和7年度対応												
○大学院課程における入学定員の未充足について、定員充足に向けた継続的な取組みが求められる。	・6月、各研究科が本学学生向けの大学院進学説明会を実施した。 ・これまで企業や団体に所属する中堅人材を対象としていた入試「キャリアアップ制度」を、36カ月以上の実務経験を有する人材（フリーランスを含む）に拡大する「社会人特別選抜」への改革案を整えた。これに伴い、各研究科で入試問題変更の骨格を作成した。 ・JICA等での活動経験を有する人材が対象の「国際協力経験者特別選抜」（文化政策研究科）において、これまで課していた専門試験を免除し、面接試験に重点を置く試験科目の変更を整えた。 ◎入試結果（定員：各研究科10名） <table><tr><td>入試年度</td><td>2023</td><td>2024</td><td>2025</td></tr><tr><td>文化政策</td><td>9（11）</td><td>5（10）</td><td>4（7）</td></tr><tr><td>デザイン</td><td>11（22）</td><td>11（37）</td><td>12（26）</td></tr></table> ※入学者、括弧内は受験者数	入試年度	2023	2024	2025	文化政策	9（11）	5（10）	4（7）	デザイン	11（22）	11（37）	12（26）	・両研究科の新制度に基づく「社会人特別選抜」と文化政策研究科の「国際協力経験者特別選抜」の入試広報および募集を開始する。 ・文化政策研究科で令和5年度に開始した入試の「事前相談」制度について、検証する。 ・デザイン研究科では、学内進学率を高める為、各学年の学科ガイダンスにて大学院説明を行う。また、M1の成果報告会、M2の中間報告会および最終報告会について、学部生に聴講の機会を与え、学部生の大学院進学を促進を図る。 ・本学の研究科修了生の活躍について広報活動を充実させる。
入試年度	2023	2024	2025											
文化政策	9（11）	5（10）	4（7）											
デザイン	11（22）	11（37）	12（26）											
○学修者本位の観点から、全学として「卒業又は修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」と「教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）」の一貫性について整理・検証し、それを踏まえた上でカリキュラムの体系性を一層わかりやすく明示することが求められる。	・アセスメントポリシーを設定し、教育研究審議会にて承認された。 ・アセスメントポリシーに基づいて、令和5年度に改正した3ポリシーと令和7年度開始の新カリキュラムの一貫性の検証のため、各科目と「卒業又は修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）」との関係を示したカリキュラムマップを作成した。	・外部評価機関による中間評価の準備の一環として、アセスメントポリシーに基づいた、3ポリシーの一貫性の検証を継続する。												
○学修者本位の観点から、各授業科目における到達目標と関わる成績評価の基準について学生に明示することが求められる。	・両学部の履修細則における成績評価の基準を定めた項を改正し、成績評価の基準を明確化した。 ・シラバスチェックにおいて、各科目の成績評価の基準の記載内容を確認、必要に応じて修正を求めた。 ・令和6年度に設置した教学IR委員会において、科目区分ごとの成績評価の分布を調査し、この結果を踏まえて、秀および優の評価の割合の目安を設定し、全学レベルでの成績評価の方針を定めた。	・教学IR委員会において、成績評価の分布の調査を継続し、全学にフィードバックする。教育の質保証の観点から、必要に応じてその改善策について検討する。 ・シラバスチェックにおける各科目の成績評価の基準の記載内容の確認を継続する。 ・成績評価の分布状況の確認・調整を行う。												

○シラバスについて、記載項目及び記載内容を大学として組織的に確認・点検することが求められる。	・教学 IR 委員会のもとに、シラバス専門部会を設置した。 ・改訂版シラバス作成マニュアルに従って令和 7 年度シラバスを作成した。 ・シラバス専門部会によるシラバスチェックを開始（学部課程シラバス総数約 1,100 件のうち、令和 6 年度対象科目は約 200 件）、科目担当者への結果のフィードバックと修正依頼を行った。	・シラバス専門部会によるシラバスチェックを継続（学部課程シラバス総数約 1,150 件のうち、令和 7 年度対象科目は約 290 件）、科目担当者への結果のフィードバックと修正依頼を行う。
--	--	--

今後の進展が望まれる点	令和 6 年度実績	令和 7 年度対応
○一単位当たりに必要な授業及び授業外学修時間を学生に示すため、各科目の講義、演習等の区分を明確化し、シラバスや履修細則等、学生にわかりやすいかたちで明示することが望まれる。	・シラバスチェックの結果も踏まえ、シラバス作成マニュアルを改定した。 ・シラバスチェックのフィードバックおよび上記のシラバス作成マニュアルにおいて、各科目の単位取得に必要な学修時間の明記を求めた。 ・教学 IR 委員会にて学生の履修単位数の調査を行い、その結果を踏まえ、CAP 制度の見直しを行い、学生の学修時間の確保に努めた。	・シラバスチェックにおいて、各科目の単位取得に必要な学修時間が明記されているかを精査、必要に応じて修正を求める。 ・シラバスチェックの結果を踏まえ、必要に応じて、シラバス作成マニュアルを改定する。 ・学生の履修状況に関する IR データの収集と分析を行い、必要に応じて、履修指導を実施する。
○将来構想検討委員会、自己点検評価委員会等の組織の役割及び連携体制を整理・共有するとともに、全学レベルでの自己点検・評価体制を明確化し、内部質保証を担う組織体制を強化することが望まれる。	・全学レベルでの自己点検・評価体制を担う教学 IR 委員会を設置し、定期会合により全学的教学マネジメント体制の強化を推進した。	・令和 6 年度の教学 IR 委員会の活動を振り返り、学内の他組織との役割分担や連携体制を検証し、必要な改善を行う。 ・アセスメントポリシーを参照し、教学 IR 委員会として未対応の点検・評価対象を洗い出し、優先順位をつけて分析と評価を行う。
○スタッフ・ディベロップメント（SD）に関して、大学として方針及び企画、実施に関する組織体制を明確化し、教育研究活動の運営の改善に向けた教職員の研修等の取組みを一層充実させることが望まれる。	・これまで別々だった FD・SD 活動を一体化するため、FD・SD 部会を設置した。 ・FD・SD 部会において、全学レベルおよび学部・学科レベルでの FD・SD 研修の内容を見直し、新たな形式による全学 FD・SD 研修会を試行した。 ・その研修会において教育質保証の動向、令和 7 年度入学生用のカリキュラム、履修等に関する諸制度を教職員で共有した。	・FD・SD 部会として、令和 7 年度入学生用のカリキュラム、履修等に関する諸制度、BYOD（情報端末各自必携）導入の効果等について検討し、さらなる改善を進める。
○授業評価アンケート等学修成果の可視化について、組織間の連携を明確化するとともに、全学レベルでのファカルティ・ディベロップメント（FD）のさらなる充実が望まれる。	・教学 IR 委員会において、授業アンケートの問題点への対応も踏まえ、新しい授業アンケート項目案を策定。FD・SD 部会や各学科での意見聴取の後、修正を行い、最終案を策定し、これを教育研究審議会で承認した。 ・教学 IR 委員会において「静岡文化芸術大学授業アンケートの実施に関する規程」を策定、これを教育研究審議会で承認した。 ・授業アンケートの結果について、教学 IR 委員会で集計、副学長、学部長による点検を経て、教育研究審議会に報告、その内容を両学部教授会で共有した。	・新しい項目による授業アンケートを実施する。 ・令和 6 年度と同様、授業アンケートの結果について、教学 IR 委員会で集計、副学長、学部長による点検を経て、教育研究審議会に報告、その内容を両学部教授会で共有する。 ・個々の学生の学修成果の可視化の方法について他大学の事例を収集し、これを参考に本学において実効性のある方法を検討する。